

## 研究ノート

# 中学校道徳教科書の読み物にみる 友情のジェンダー表象

歌川 光一

Gender Representation of Friendship in Moral Textbooks of junior High School in Japan

UTAGAWA Koichi

## 1. 問題の所在

本稿の目的は、2017年改訂学習指導要領に基づいた中学校道徳教科書に掲載されている「友情、信頼」に関する読み物の分析から、同性間の友情のジェンダー表象を明らかにすることにある。

上床弥生によれば、中学校の教室では、生徒の行動をコントロールするコードとして、男子と女子との間の距離化や男子優位の上下関係で行為を説明する「ジェンダー・コード」が、圧倒的に重要なものとして存在しているという（上床2011）。上床は、学級内において語られる「ジェンダー・コード」と男女それぞれのグループ内部の関係性に関わる「グループ内コード」を分けて考察しており、後者について、男子は「力関係を意識する」と同時にその行き過ぎを防ぐ「怒らせない」コードを、女子はとにかくグループ内部の「まとまりを大切にする」コードを共有しているという（同上：34-35）。顕在的カリキュラムとして「友情」や友達関係を直接的に扱い、2019年度から「特別の教科」化する「道徳科」において、中学校の学級においてグループ関係の前提となる同性間の「友情」はどのように表象されているのだろうか。

ところで、同性間の友情の表象の解明は、中学生に限らず重要なものとなっている。藤野寛は、倫理をめぐる近年の「自律／ケア」の対比を友情の問題に適用し、自律する者たちの友情（力や強さから出発し、成功をめざす友情）のみならずケアを必要とする者たちの友情、依存する人間同士の友情（依存や弱さを前提し、支え合いやケアを求める友情）のあり方について検討すべきだが、前者は「男の友情」、後者は「女の友情」と観念されやすいと指摘する（藤野2018：159-170）。この構造が道徳科の「友情」の表象にも見られるとすれば、隠れたカリキュラムとして伝達されていることを意味するだろう。

これらの課題を受け、本稿では、中学校道徳教科書（見本本）における学校内での関係づくりを題材とした読み物の分析から、同性間の「友情」のジェンダー表象を明らかにす

る<sup>1</sup>。道徳教材におけるジェンダー表象の研究については吉本（2018：72-73）においてもレビューされているが、「友情」のジェンダー表象は、管見の限り十分明らかにされていない。

本稿では、中学校の検定済み道徳教科書を発行する8社（東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、学研教育みらい、廣済堂あかつき、日本教科書）の教科書と付属するノート（見本本）のうち、内容項目「友情、信頼」に関わる読み物<sup>2</sup>の登場人物やその描かれ方に着目して分析を進めていく<sup>3</sup>。

## 2. 中学校道徳教科書における学校内での関係づくりを題材とした「友情、信頼」関連の読み物の概観

以下表は、中学校道徳教科書における学校内での関係づくりを題材とした「友情、信頼」関連の読み物を、①話者（地の文）の性別、②「友情」「恋愛」の発生や深まりといった作品の中心的なテーマに関わる中学生もしくはほぼ同じ年ごろと推測される青少年（表中の「登場人物（友情）」、以下このように表記する）の性別、③その周辺で「友情」「恋愛」の発生や深まりに関与する中学生もしくは同じ頃と推測される青少年（表中の「登場人物（周辺）」、ただし、「」付で何かしらの発話をしている人物に限る）の性別（岩本ほか2003、田中ほか2003参照）、④「友情」「恋愛」の発生や深まりの契機、によって分類したものである。

中学校道徳の単元「友情、信頼」の目的（注3）に対応させると、学校内での関係づくりを題材とした42点の読み物教材（同一作品含む）は、(A) 同性間の「友情」を意識した教材21点（c, e, f, g, h, j, l, o, p, s, t, u, w, x, y, aa, ad, ah, aj, al, ao）、(B) 異性は登場するが恋愛の要素が盛り込まれておらず異性間の「友情」を意識した教材7点（a, b, d, n, q, r,

- 
- 1 筆者らは、子ども・若者にとっての「友達」のあり方について、教育・保育がどの発達段階でどのようにどの程度介入すべきかを再検討し、体系性のあるカリキュラムを構想することを目的として、（保育所・）幼稚園・小学校・中学校の要領や教材に着目し、顕在的カリキュラムとして「友達」「友情」がどのように扱われているかについて検討を重ねている（水引・歌川2017、歌川・岡邑2017、岡邑・歌川2018、水引・歌川・濱野2018、歌川2018）。本研究も同様の関心に基づいた研究の一部である。
  - 2 小学校国語教科書を分析した味見文絵も指摘するように、読み物教材・物語教材は、「感情移入しやすい」という点でジェンダーも概念の内面化に影響を与えやすい」と想定される（味見2017：44）。
  - 3 寺町晋哉も指摘するように、中学校道徳の単元「友情、信頼」の目的は、「友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。」となっており、そもそも「異性についての理解（友情や恋愛—引用者）」は、同性間の友情とは別の扱いのようなニュアンスとなっている（寺町2018：117-118）。この取り扱われ方自体、検討の必要性があるが、本稿では1に述べた中学校の学級における同性のグループ化という背景への関心から、ひとまず同性間の友情の考察を行う。

表：中学校道徳教科書における「友情、信頼」関連の読み物一覧

東京書籍	登場人物 (友情)	登場人物 (周遊)	契機	学校図書	話者	登場人物 (友情)	登場人物 (周遊)	契機	教育出版	話者	登場人物 (友情)	登場人物 (周遊)	契機	光村図書	話者	登場人物 (友情)	登場人物 (周遊)	契機
a. 「短支控帳サイトに友達の悪口を書く」と①	M 2 F 1	M 0 F 0	・情報	g. 「旗」①	N	M 0 F 2	M 0 F 0	・怪我や病気 ・部活	最強の敵 最大の友「瀬戸口、ライバル」通って「闘」①	M	M 2 F 1	M 0 F 1	・ハレソング ・恋愛 ・特話	「いちばん高い値段の絵」①	M	M 1 F 0	M 1 F 0	・その他
b. 「班での出来事」①	M 2 F 3	M 0 F 0	・怪我や病気 ・部活 ・情報 ・怪我や病気	h. 「いつも一緒に」①	N	M 0 F 2	M 0 F 2	・部活	m. 「ナヨコの行方」①	M	M 2 F 1	M 0 F 1	・ハレソング ・恋愛 ・特話	r. 「親友」①	M	M 1 F 0	M 1 F 0	・その他
c. 「ゴール」②	M 0 F 5	M 0 F 0	・部活 ・情報 ・怪我や病気	i. 「ゴリラのまねをした少女を好きになっ」②	M	M 1 F 1	M 1 F 1	・特話	n. 「たすきとボンボン」②	F	M 1 F 2	M 1 F 0	・特話	s. 「友達はライバル」②	M	M 2 F 0	M 0 F 0	・部活
d. 「みんなでとんだ」②	M 4 F 0	M 0 F 0	・特話	j. 「千五百メートル走」②	M	M 2 F 0	M 2 F 0	・特話 ・怪我や病気	o. 「本当の友達って」②	M	M 2 F 0	M 3 F 0	・情報	t. 「違うんだよ、健司」②	M	M 3 F 0	M 0 F 0	・怪我や病気
e. 「私を覚えてくれた言葉」③	M 0 F 2	M 0 F 1	・いじめ	k. 「五月の風」③	M	M 1 F 1	M 0 F 0	・特話 ・部活	p. 「僕は友達を裏切ったのか？」③	M	M 5 F 0	M 0 F 0	・部活	u. 「私がピンク色のキャップをかぶるわけ」③				
f. 「合格通知」③	M 0 F 2	M 1 F 0	・情報 ・受験	l. 「鏡の中の私」③	N	M 0 F 2	M 0 F 2	・部活 ・情報	q. 「フットライト」③	M	M 1 F 1	M 0 F 1	・特話	v. 「嵐の後に」③				
g. 「近頃はいい友」①	M 2 F 0	M 1 F 0	・情報	あるどエロの物語①	M	M 1 F 0	M 1 F 0	・情報	ag. 「アイツ」①	N	M 1 F 1	M 0 F 0	・怪我や病気	ad. 「いつもいつしよに」①	N	M 0 F 2	M 0 F 2	・部活
h. 「部活の盛り」①	M 1 F 1	M 0 F 0	・その他	ac. 「クラスメイト」①	M	M 1 F 2	M 0 F 2	・特話	ah. 「吾一と京造」①	N	M 2 F 0	M 3 F 0	・部活	am. 「リョウとマキ〜」①	M	M 1 F 1	M 2 F 0	・怪我や病気
i. 「旗」①	M 0 F 2	M 0 F 0	・怪我や病気	ad. 「吾一と京造」①	N	M 2 F 0	M 3 F 0	・その他	ai. 「風のあとに」②					an. 「リョウとマキ〜」②	M	M 1 F 1	M 2 F 0	・怪我や病気
j. 「五月の風〜ミカ」②	M 0 F 2	M 0 F 1	・情報	ae. 「サキとタク」②	N	M 1 F 1	M 1 F 2	・部活	aj. 「アイツとセントバレンタインダー」②	N	M 1 F 1	M 2 F 1	・ハレソング ・恋愛 ・特話	ap. 「リョウとマキ〜」③	M	M 2 F 0	M 0 F 2	・部活
k. 「ライバル」②	M 2 F 0	M 0 F 0	・怪我や病気	af. 「私たちの夏」③	F	M 1 F 1	M 1 F 2	・部活	ak. 「アイツの連絡簿」③	N	M 1 F 1	M 0 F 0	・受験					
l. 「恋する派」②	F 2 F 0	M 0 F 0	・情報	二人のエース③	M	M 1 F 2	M 1 F 2	・部活										
m. 「違うんだよ、健司」③	M 3 F 0	M 0 F 0	・怪我や病気															
n. 「ゴリラのまねをした少女を好きになった」③	M 1 F 1	M 1 F 1	・特話															

注1) 〇内の数字は学年を表す。  
 注2) Mは男子、Fは女子、Nはどちらとも判断つかない状態を意味する。  
 注3) 「契機」は「特別活動」を、「情報」は「情報モラル」意味する。また、「怪我・病気等」には、「死亡」も含み、中学生本人やその親族のそれらを示す。  
 注4) 以下、表中の作品を引用する際は、表中のアルファベットのIDにて示す。なお、以下の引用は、作品の一部である。

ae)、(C) 異性との恋愛要素が盛り込まれている教材 14 点 (i, k, m, v, z, ab, ac, af, ag, ai, ak, am, an, ap)、に分けることができる。

「友情」「恋愛」の発生や深まりの契機別にみると、怪我や病気が 11 点 (b.c.g.j.t.w.y.aa. ag.aj.am)、部活動が 9 点 (h, k, l, p, s, ae, af, al, an)、特別活動が 8 点 (d, i, j, k, n, q, ab, ac)、情報モラルが 7 点 (a, c, f, l, o, u, x, ao)、受験が 3 点 (f, ak, ap)、バレンタイン 2 点 (m, ai)、その他 1 点ずつとなっている。

(A) について詳細を検討すると、男子間の友情を描いている教材は 11 点・8 作品 (j, o, p, s, t=aa, u, y=aj, ad=ah)、女子間の友情を描いている教材は、10 点・8 作品 (c, e, f, g=w, h=al, l, x, ao) である。登場人物(友情)の数の平均は、男子間の友情を扱った作品で男子 2.5 人、女子間の友情を扱った作品で女子 2.4 人となっている。また、登場人物(周辺)数の平均は、男子間の友情を扱った作品で男子 1.3 人、女子 0 人、女子間の友情を扱った作品で男子 0.1 人、女子 0.9 人となっている。男女ともに、同性の二～三者間で友情の発生や深まりを感じ、その過程で 1 名前後の関与があるのが平均的な展開と言える。

(B) に関しては、性別に関係なく話し合いや協力を進めて協力的になっていく展開 (b,c)、主人公の中学生が性別役割に悩む展開 (女子中学生が運動会や文化祭で「女子らしくない」とされる役割を担ったりまたその活躍を見せる (n, q)、男子と遊ぶのが好きな女子中学生とその親友の男子中学生が周囲に冷やかされる (r)、部活上の相談している男子中学生と女子中学生が周囲に誤解される (ae)) などがある。

(C) に関しては、恋愛を含め異性との距離の取り方への葛藤に関する展開 (k, v, ac, af, ag, ai, am)、恋愛と友情の板挟みになる展開 (m, z, an)、恋愛と進路の板挟みになる展開 (同じ受験校を選ぶかもしくは能力的に選べるか、ak, ap)、異性への思わぬ形での尊敬 (i, ab) などがある。なお、(C) に関して、「話者」に着目すると、14 点 13 作品中、男子が話者である作品が 7.5 作品、女子が話者である作品が 2.5 作品であり、恋愛要素を含む教材は男子目線の教材が多いことがわかる。

以下では、主に同性間の友情を扱っている (A) の作品群に注目することで、中学校道徳教科書における「友情、信頼」の取り扱いに関する課題を探ってきたい。

### 3. 同性間の友情のジェンダー表象

2. で確認したように (A) の作品群は、登場人物(友情、周辺)数という量の点からはジェンダー・バランスが取れていると言える。

一方で、実際の記述内容に着目すると、登場人物(友情)の性別によるストーリー展開や登場人物(周辺)の描かれ方に違いも見られる。以下に整理しておきたい。

#### 3-1. 契機別にみる登場人物(友情)の描かれ方

まず、契機別にみる登場人物(友情)の描かれ方を検討したい。

なお、2. 確認したように、「友情」「恋愛」の発生や深まりの契機としては怪我や病気が最も多いが、そのうち男子間の友情を描いている作品が5点 (j, t, y, aa, aj) であるのに対し、女子間の友情を描いた作品は1点 (c) である。ここでは比較のため、該当作品が2作品以上ある「部活動」「情報モラル」について検討する。

### ①部活動での同性間の拮抗

部活動を友情の契機とする作品においては、歌川・岡邑 (2017) でも示唆したように、男子の関係が文字通り「ライバル」関係や応援し合う関係として描かれ、活躍の場が同じであるか否かは別として切磋琢磨する状態につながる (p, s, y=aj) が、女子同士が同部活内で能力が拮抗したり、もしくは一方の能力が優れている場合、その時点で劣っているとみなされている女子が切磋琢磨するという展開にはなりづらい (h=al, l)。

例えば、pでは、甲子園出場を目指すために廃校となる自校を離れ、隣の高校の野球部に加わって野球を続けようとする主人公とそれを応援する自校の元部員の様子が描かれている。

僕が隣の高校の野球部に行くと言った時、地域の大人たちからは、

「なんでおまえだけ行った？」

と裏切り者という目で見られることも多かった。普通ならそう思われてもおかしくない。

だけど、あいつらはそうじゃなかった。優しく送り出してくれた。そのうえ、がんばれ！がんばれ！と言って、応援してくれた。(p)

一方、h=alでは、同じバレー部一年生でありながら学年で一人だけレギュラーに選ばれた友達のみゆきに宿題を見せるように頼まれる真理子の葛藤が描かれている。

「自信ないなあ。どうしよう。」

と、レギュラーに決まった日の帰り道、みゆきは何度も繰り返した。

〔中略…引用者〕

ところがその日以来、真理子の方は、なんとなく体育館へ行く足が重くなっているみゆきが先輩に混じってコートで練習しているのを横目で見ていると、なにかいらいらしてくるのだ。(h=al)

### ②情報モラルとの関わり

情報モラルについて扱った作品8点 (a, c, f, l, o, u, x, ao) において、男子が主人公となっている a, o, u においては、友情を乱す周辺人物が登場せず、友人の判断によりインターネットやSNSの情報に振り回されない友情が描かれるのに対し、女子が主人公となっ

ているc, f, l, x, aoでは、周辺人物との関係に翻弄され、修復が難しい状態に陥ってしまう様子が描かれている。

例えばoでは、主人公の昭夫がやっとの思いでスマートフォンを手にしたが、それによって友人とのつながりが密になりすぎたことに戸惑いながら、親友の達也に誘われたゲームの買い物を断り気まずい思いをする。しかし、達也は「僕は、昭夫とずっと友達でいたいんだ。」と言い残して去っていく。

一方、aoでは、葵と沙織しか知らないはずの、「葵が勇太に告白した」という事実を加奈子が葵にメッセージを送ってくる場面から始まり、沙織を疑った葵と沙織の関係が修復しきらないまま話が締められる。

### 3-2. 登場人物（周辺）の描かれ方

続いて、登場人物（周辺）の描かれ方を見てみよう。

例えばjは、「私」が、不良っぽく孤独に見えたイサ男と運動会の1,500メートル走をきっかけに親交を深める展開だが、「ホリ」は、以下のように二人の仲を取り持つ重要な役割を果たしている。

「おい。お前、イサ男と一緒に練習しないのか。」

と突然、ホリに話しかけられた。

「あいつ、お前のこと頼りにしているみたいだよ。」

責めるような厳しい言い方だった。私は、

「ああ。」と空返事をした。(j)

それに対し、先にも引用したh=alでは、真理子に宿題を見せるように強くせがむみゆきに応援として登場人物（周辺）が加わる。

「なによ。私はあんたの宿題係じゃないんだよ。自分でやってよ。」

真理子の激しい声に、クラスみんなが注目した。いつもなら笑ってノートを貸してくれる真理子の思わぬ態度が、みゆきは理解できないという表情だ。すると、それまで近くで友達と話していた恵子がきつい調子でみゆきに迫った。

「朝倉さん。宿題くらい自分でやるべきよ。」

何か言い返そうとしたみゆきを見無視して、恵子はさっと真理子を自分たちのグループの方へ引き寄せると、真理子にそっと耳打ちした。

「真理ちゃん。あなたいいように利用されちゃってるのよ。」

それから、今度はわざと、みゆきに聞こえるように声を上げる。

「あのレギュラーになったもんだから、いい気になって威張ってるのよ。はっきり分かせてやった方が本人のためなのよ。」(h=al)

真理子はこの後恵子のグループに加わるが、恵子はその親友に見えていた由里の悪口を言っているのを聞いて我に返り、みゆきに冷たい仕打ちをしたと反省し始める。

また1は、仲の良かった優奈（パソコン部）と彩花（バスケットボール部、部活で県選抜に選ばれた）の間に、彩花に対して「あのコ最近調子のってない？ウザくない？」「他の子たちもウザいって言ってたよ」「そう！自分だけイイかっこしてるよねー」(1)と七海と三咲が切りこんでいくことからトラブルが生じていく。

これらの展開に共通しているのは、登場人物（友情）間の関係には直接関係のない女子が登場し、一見客観的な状況整理を行いながら、登場人物（友情）間の関係を乱す点である。

2. で確認したように、同性の二～三者間での友情を深める点で男女の友情の描かれ方は共通しているが、3-1の部活動や情報モラルでの描かれ方の男女差も踏まえると、女子の場合、その過程への関与者の影響力が大きく、友情に生じた葛藤の克服が難しくなる様子が描かれていると言える。

#### 4. まとめと今後の課題

本稿では、2017年改訂学習指導要領に基づいた中学校道徳教科書に掲載されている「友情、信頼」に関する読み物の分析から、同性間の友情のジェンダー表象を明らかにした。読み物教材は、同性間の「友情」を意識した教材、異性は登場するが恋愛の要素が盛り込まれておらず異性間の「友情」を意識した教材に分けることができ、同性間の「友情」を意識した教材に関しては、登場人物（友情、周辺）数上でのジェンダー・バランスがとれていたが、部活動上の能力の拮抗、情報モラル、友情への登場人物（周辺）等の点で男女差が見られた。具体的には、男女ともに同性の二～三者間での友情を深める点は共通しているが、女子の場合、その過程への関与者の影響力が大きく、友情に生じた葛藤の克服が難しくなる様子が描かれていた。

本稿の検討を通じて、読み物資料も量的な面でジェンダー・バランスへの配慮がなされ、中学校における同性のグループ化の進行という実態に照らし合わせた内容となっていることが明らかとなった。と同時に、中学校道徳教科書には、「友情」のイメージや友人関係の持ち方、特定の友人と友情を深める際の周近的な友人との関わり方等の点でジェンダー・バイアスも見られた。すなわち、男子間の友情は、（部活動での「ライバル」関係に顕著なように、）自律した者同士が力や強さから出発し、成功をめざす友情であるのに対し、女子間の友情は、（SNSでのトラブルに顕著なように、）ケアを必要とする者、依存する人間同士の友情が描かれており、その友情の葛藤が昇華されて何かの成功につながるようには描かれていなかった。この点は、中学校道徳教科書における、「友情」の持ち方をめぐる隠れたカリキュラムとなっている可能性が示唆される。共通の成功を目指す男子間の友情は目的志向的で、学校教育上取り扱いやすいかもしれないが、共有していた関心対象が失われるとそのつながりが切れやすく、孤立に陥りやすいという側面も指摘され

ている（辻2015：198-200）。道徳科の指導上において、女子間の友情に見られるケアの側面の評価をいかに議論の俎上に載せていくかは論点の一つである。

本稿はあくまで少数の読み物の検討に留まったが、今後、友達づくりをめぐるハウツーや学校外での関係づくりを題材とした読み物資料等、道徳教科書中の異なる側面の検討とを合わせ見ながら、「特別の教科 道徳」における「友情、信頼」の指導について考察、構想していくこととしたい。

## 付記

本稿の執筆にあたり、科研費・基盤研究（C）「社会の形成者としての資質を涵養する特別活動の積極的な生徒指導機能の実証的研究」（中村豊研究代表、18K02548）の助成を受けた。

## 引用・参考文献

- 味見文絵（2017）「小学校国語教科書の中に見るジェンダー」『奈良教育大学国文：研究と教育』40、pp.44-32.
- 藤野寛（2018）『友情の哲学—緩いつながりの思想—』作品社
- 磯辺菜々（2017）「絵本に描かれる「友情」イメージと友情至上主義の社会学的分析」『教育・社会・文化』17、pp.15-35.
- 岩本親憲・田中マリア・古川明子・吉田武男（2003）「道徳学習における教材開発のための基礎的研究—ジェンダーの観点からの小学校副読本分析（2）」『教材学研究』14、pp.231-234.
- 小谷野敦（2011）『友達がいらないということ』筑摩書房
- 水引貴子・歌川光一（2017）「「友達」をめぐる保育内容（人間関係）と生活科、道徳、特別活動のカリキュラムの接続とその課題—2017年改訂学習指導要領・幼稚園教育要領の検討を中心に—」『敬心・研究ジャーナル』1（2）、pp.131-137.
- ・———・濱野義貴（2018）「友達との関係づくりをめぐる小学校第一学年の顕在的カリキュラムの検討—生活科教科書と道徳の読み物教材の比較から—」『敬心・研究ジャーナル』2（1）、pp.129-134.
- 文部科学省（2017）『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科道徳編』
- 岡邑衛・歌川光一（2018）「高校生のコミュニケーション能力を育む学級集団に関する一考察—特別活動が目指す「望ましい集団活動」を視野に入れて—」『甲子園大学紀要』45、pp.1-5.
- 鈴木翔（2015）「友だち」本田由紀編著『現代社会論』有斐閣、pp.79-101.
- 田中マリア・岩本親憲・古川明子・吉田武男（2003）「道徳学習における教材開発のための基礎的研究—ジェンダーの観点からの小学校副読本分析（1）」『教材学研究』14、pp.227-230.
- 寺町晋哉（2018）「ジェンダーの視点からみた新学習指導要領」『宮崎公立大学人文社会学部紀要』25（1）、pp.105-121.



- 辻大介 (2015) 「つながる—友人関係とジェンダー」伊藤公雄・牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学 [全改訂版]』世界思想社、pp.189-201.
- 上床弥生 (2011) 「中学校における生徒文化とジェンダー秩序—「ジェンダー・コード」に着目して—」『教育社会学研究』89、pp.27-48.
- 歌川光一 (2018) 「小・中学校道徳教科書にみる友達との関係づくりの諸相」『昭和女子大学現代教育研究所紀要』4、pp.37-42.
- ・岡邑衛 (2017) 「小中学校における「友達」をめぐる顕在的カリキュラムの検討—道徳の読み物教材に描かれる友情—」『昭和女子大学現代教育研究所紀要』3、pp.75-84.
- 吉本篤子 (2017) 「ジェンダーに配慮した道徳教育の指導法の検討—読み物資料と学習指導要領に着目して—」『愛知大学教職課程研究年報』(7)、pp. 71-83.

(うたがわ こういち 初等教育学科専任講師)

